

「就労準備性チェックシート」について

「就労準備性チェックシート」ができるまで

大阪市こころの健康センターでは、平成 19 年度より「精神障害者雇用に関する啓発事業」をおこなってきました。この事業を通じ、協力企業からは障害のある人の「就労準備性の不足」を指摘されました。そこで、平成 20 年度では、精神障害のある人の「就労準備性」を高めるためにはどうしたらよいか、に取り組みました。

障害のある人の「就労準備に関するチェックリスト」については、これまでも医療機関や就労支援機関で、さまざまな形で活用されています。しかし、それらの多くは項目数も多く、支援者の視点からの評価を中心としているように感じられました。

そこで、まずは「就労準備性」について、自分でチェックしてみることから始めてほしいと考えました。

「就労準備性チェックシート」のポイント

- チェック項目の内容や順番については、平成 20 年度事業体験者や協力企業の声をもとに、検討・修正を重ねて作成しました。
- チェック項目は具体的な言葉を使い、わかりやすくしました。
- 定期的にチェックして、変化や次の課題についても意識できるように、1シートで計 4 回分を記入できるようにしました。
- 項目ごとに点数化し、グラフ（レーダーチャート）にして、目で見ても確かめられるようにしました。
- W R A P（「元気回復行動プラン」）の考え方をヒントに自分の性格、病状や悪化のサイン、その対処方法について振り返り、再確認するページを作りました。

W R A Pとは、アメリカの当事者が自己回復の理念のもと、健康管理に関して自分でできる「工夫」をプランとしてまとめたものです。

大阪市こころの健康センター

平成 21 年 3 月

「就労準備性チェックシート」の記入・活用にあたって

利用者のあなたへ

1. このシートはあえて、「就労準備性自己チェックシート」とは名づけていません。まずは、自分でつけてみましょう。
2. 自己チェックのあとは、支援機関や医療機関などの身近な支援者にもチェックしてもらいましょう。
3. そして、「今できていること」、「苦手なこと」、「これからの目標」について、支援者と話し合ってください。
今、あなたが作業や仕事をしているところの方に、チェックしてもらうのもよいでしょう。
4. これらのあとで、次のステップについて、支援者と考えてみましょう。

支援者の方へ

1. まず、ご本人に記入してもらいます。
2. 次に、活動・支援を通じて知り得た様子にもとづいて、記入してください。
3. くいちがう点も出てくると思いますが、ともに記入したあとには理解を深めるために、ご本人と話し合ってください。
4. 「今できていること」、「苦手なこと」、「これからの目標」について、再確認し、今後の活動・支援の計画などに活用してください。



この「就労準備性チェックシート」が、働くことについて考える、ひとつのきっかけになれば、幸いです